

西脇市の蝶

吉 田 豊

西脇市は加古川と杉原川の2つの川の合流地点にひらけたまちで、古くから播州織物工業の中心地として発展してきた。地理的には東経135度北緯35度の交差点にあり、日本の「へソ」と言われている。

標高は約60メートルで、かりに海面が200メートル上った場合、瀬戸内海と日本海は加古川水系と由良川水系によってつながり、この西脇市も海面下になるという全国でも最も低い地域でもある。

1000メートル前後の高さを保ってきた中国山地は、しだいに高さを減じ、500メートルから700メートルの丘陵性の山々となり、この地域でとぎれる。

この地域を東限西限とする植物も多いようで、蝶ではウスイロヒョウモンモドキがこの水系から東に分布しないことなど、県下の動植物相を語る上で見のがせない重要な地域でもある。

西脇市周辺の丘陵のアカマツ林にはヒメカンアオイが見られ、そのほぼ全域にはギフチョウが発生し、県下でも屈指の産地である。

筆者は、竹内俊行、村上英樹、徳岡正己、松尾隆の諸氏の協力を得て、1979年までの10数年間西脇市全域の調査を行い、73種の蝶の生息を確認した。この他にナガサキアゲハ、インガケチョウ、クロコノマチョウなどの記録があるが、定着しているかどうか判らないので数の中に入れていない。また、1971年5月11日に市内出合にてウスバシロチョウが採集されているが、生息しているとは考えられないので除外している。これまでに確認された種は次の通りである。

1. アゲハチョウ科 (10種)
ギフチョウ、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハ、キアゲハ、アゲハ、モンキアゲハ、クロアゲハ、オナガアゲハ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ
2. シロチョウ科 (7種)
モンキチョウ、ツマグロキチョウ、キチョウ、スジグロシロチョウ、エゾスジグロシロチョウ、モンシロチョウ、ツマキチョウ、
3. シジミチョウ科 (19種)
ムラサキシジミ、ウラゴマダラシジミ、ウラキンシジミ、ウラナミアカシジミ、ミズイロオナガシ

ジミ、ミドリシジミ、オオミドリシジミ、トラフシジミ、キマダラルリツバメ、コツバメ、ベニシジミ、ゴイシシジミ、ウラナミシジミ、ヤマトシジミ、シルビアシジミ、ルリシジミ、ツバメシジミ、クロシジミ、ウラギンシジミ

4. タテハチョウ科 (19種)
アカタテハ、キタテハ、ルリタテハ、ヒオドシチョウ、コムラサキ、スミナガシ、ヒメアカタテハ、ウラギンズジヒョウモン、オオウラギンズジヒョウモン、メスグロヒョウモン、クモガタヒョウモン、ミドリヒョウモン、ツマグロヒョウモン、イチモンジチョウ、アサマイチモンジ、コムスジ、ホシミスジ、ゴマダラチョウ、サカハチチョウ、
5. ジャノメチョウ科 (9種)
ヒメウラナミジャノメ、ウラナミジャノメ、ジャノメチョウ、クロヒカゲ、ヒカゲチョウ、キマダラヒカゲ、ヒメジャノメ、ヒメヒカゲ、コジャノメ
6. セセリチョウ科 (7種)
ミヤマセセリ、ダイミョウセセリ、コチャバネセセリ、キマダラセセリ、ホソバセセリ、イチモンジセセリ、アオバセセリ
7. マダラチョウ科 (1種)
アサギマダラ
8. テングチョウ科 (1種)
テングチョウ

〈参考文献〉

- 広畑政己 (1980) エゾスジグロチョウの採集記録数例
ひろおび、No.5 p.22
神戸新聞社学芸部 (1974) 兵庫探検自然編
神戸新聞社 兵庫
事典兵庫編集委員会 (1980) 事典ひょうご
神戸新聞出版センター、兵庫

(S. 34 : YUTAKA YOSHIDA 西脇市)